

藤田伝三郎

その鉱山事業史

DVD 版



監修：武田晴人 東京大学名誉教授

2015年12月発売 定価¥150,000 (本体)

- 「藤田伝三郎」と彼の創業による「藤田組」の事業活動に関する記録を収集。
- 藤田組から派生した同和鉱業の社史『70年の回顧』（1955年11月）編纂の際に収集された資料と小坂鉱山に遺された鉱山関係資料からなる。（下記参照）
- 往時の鉱山の経営状態を伝えるだけでなく、鉱山開発の技術史的観点からも興味深い。
- 明治以降の日本経済を牽引した非鉄金属工業の研究史に一石を投ずる資料として明治期の経営史、財閥史、鉱山業史研究者にお勧めします。

■社史編纂資料

1. 本店関係：本社組織、経営、藤田家、2. 小坂・花岡鉱山関係：事業経営、採鉱関係、製煉関係、付帯施設、労働関係、花岡支山、3. 柵原鉱山関係：事業報告、事業概況、4. その他鉱業関係：犬島・帯江、大森、硫化鉱、鉱山実況調査、その他、5. 関係事業：亜鉛、その他、6. 談話記録等：座談会記録、談話記録、7. 事業史原稿：原稿、その他、8. 資料目録ほか：資料目録、刊行物等

■小坂鉱山資料

1. 事業景況報告、2. 事業月報、3. 会議録、4. 規則等、5. 鉱業施業案・鉱業簿、6. 諸統計資料（1）、7. 諸統計資料（2）、8. 往復書類、9. 参考資料

出版・発売：丸善株式会社

藤田伝三郎

その鉱山事業史

DVD 版

監修者のことば

監修：武田晴人 東京大学名誉教授

本企画は、1950年代初めに同和鉱業が社史『70年の回顧』編纂のために収集した資料と1980年前後に筆者が小坂鉱山でマイクロ複写した鉱山関係資料からなっている。

藤田組は、藤田伝三郎(1841～1912年)を中心に2人の兄により創立された藤田伝三郎商社を起源とする。伝三郎は醸造業のほか藩の下級武士に融資をおこなう掛屋を兼営していた酒屋の4男として生まれ、元奇兵隊士として維新の動乱期を過ごし、その後は新政府の御用を請ける政商として財をなした。1878年には贖札事件への関与が疑われたことから、事業が一時頓挫したが、1881年に藤田組に組織替えして再起を図り、鉄道建設や琵琶湖疎水事業などの土木建設業に活路を求めた。84年には秋田県小坂鉱山の払い下げをうけるとともに、89年からは兄島湾干拓事業にも着手した。

この間、資金面では毛利家からの融資を受けて鉱山開発などに努め、1900年前後には小坂鉱山の黒鉱開発に成功して事業発展の基礎を固め、第一次大戦期には藤田銀行を設立するとともに、鉱山部門を藤田鉱業(後の同和鉱業)として分離するなど財閥型の経営発展を遂げた。しかし、金融恐慌による銀行破綻などによって財閥としての発展の道が閉ざされた。この間、鉱山業では、花岡鉱山、柵原鉱山などを買収して五大産銅企業の一角を占めるとともに、大阪亜鉛などを設立するなど経営の多角化を進め、安治川土地や宇治川電気などの事業に参画するなど大阪財界を代表する事業家となった。

明治維新の動乱期に実業家として急成長した岩崎弥太郎、安田善次郎、古河市兵衛、浅野総一郎、大倉喜八郎などと並ぶ政商であった藤田伝三郎については、十分な資料が残されていなかったこともあり、同和鉱業が社史編纂のために収集した資料が貴重な情報源であった。紆余曲折のあった事業展開のために、その資料のほとんどは収集時点で散逸しかかっていた資料を社史編纂室が筆写したものであった。創業期のさまざまな記録を含んでいるだけでなく、小坂鉱山や花岡鉱山、柵原鉱山などの事業記録、関係事業の記録、さらには伝三郎の甥にあたる久原房之助や鉱山技術者として知られる池田謙三、辻元謙之助らからのヒアリング記録などを含んでいる。

また、小坂鉱山関係資料は、1980年当時、小坂鉱山に保存されていた事業景況報告、事業月報、課長会議等の会議録、鉱業簿、鉱夫関係の諸記録、統計、本社との書簡のやりとりの控えなどの一次資料をマイクロ複写したものである。

これらの資料を利用して明治期の経営史、財閥史、鉱山業史などの分野で新たな研究が展開することを期待している。



旧小坂鉱山事務所

出版・発売

M MARUZEN

丸善株式会社 学術情報ソリューション事業部 洋書センター 商品開発グループ

〒105-0022 東京都港区海岸1丁目9番18号 国際浜松町ビル

TEL.03-6367-6078 FAX.03-6367-6183 e-mail mzpro@maruzen.co.jp <http://www.maruzen.co.jp/>